

ブナ科見本林

ブナ科の仲間には、薪^{まき}や炭の材料として利用されてきたコナラやクヌギ、実（ドングリ）を食べておいしいクリやスタジイなど、身近な種類が数多くあります。個性的な2種類のブナ科樹木^{しょうかい}を紹介します。

シリブカガシ

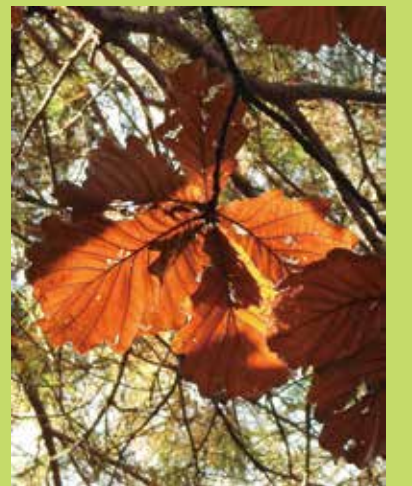
名の由来はドングリの底がへこんでいることから。ドングリをこすると白い口ウ物質が取れてツヤツヤになります。ブナ科の仲間としては^{めずら}珍しく、秋に花が咲き、翌年ドングリになります。



花穂（かすい）とドングリ

カシワ

かしわ餅^{もち}をくるんでいる葉として有名ですが、昔から料理を盛ったり包んだりしていました。葉は冬になっ^かて枯れても枝から落ちないため、縁^{えん}起が良いとされています。ドングリはクヌギより小さい球形です。



冬でも落ちにくい枯れ葉

大木となったアベマキ、シリブカガシ、マテバシイは、田無演習林の前身があった目黒区^{こまば}駒場から1934年に移植されたものと思われます。他に、クリ、スタジイ、アカガシ、クヌギ、シラカシ、アメリカガシワ、コナラなどのブナ科樹木が生育しています。^{くわ}詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。



まめ知識

～ドングリの旅～

ドングリは動物たちにとって栄養豊富な食料です。なぜ、まるごと食べられてしまうドングリ^{かく}を動物に提供しているのでしょうか？ネズミやリスは、食べきれないドングリを運んで隠しておきますが、忘れてしまっても発芽するものもあります。動物にドングリを運んでもらうことによって、遠くに子孫を残すことができるのです。

